

ワクチン情報文書

肺炎球菌結合型ワクチン(PCV13)

知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

ワクチン接種により、子供と大人の肺炎球菌感染症を予防することができます。

肺炎球菌感染症は細菌が原因の病気で、密接することで人から人へ感染します。耳の感染症の原因となり、次のようなより深刻な感染症に進展する場合があります：

- 肺（肺炎）、
- 血液（菌血症）、
- 脳と脊髄を包む髄膜（髄膜炎）。

肺炎球菌性肺炎は成人の間で最もよく見られます。肺炎球菌性髄膜炎にかかると聴覚障害や脳障害の原因となり、約10人中1人が死亡します。

肺炎球菌感染症は誰でもかかりますが、2歳未満の子供・65歳以上の成人・特定の健康状態にある人・喫煙者の間で感染の危険が最も高くなっています。

ワクチンの導入前、5歳未満の肺炎球菌感染者のうち：

- 髄膜炎が700件以上、
- 血液感染症が約13,000件、
- 耳の感染症が約500万件、
- 死亡が約200件

米国内で毎年報告されていました。ワクチンが導入されてから、子供の深刻な肺炎球菌感染症は88%減りました。

米国では、毎年18,000人の高齢者が肺炎球菌感染症で死亡しています。

ペニシリンその他の薬が従来に比べて効きにくい耐性菌の出現によって、肺炎球菌感染症の治療効果が出にくくなっています。ワクチン接種による感染症を予防することが一層重要です。

2 PCV13ワクチン

肺炎球菌ワクチン(PCV13)を接種することで、13種類の肺炎球菌から予防が可能です。

PCV13の標準的な接種時期は、生後2カ月、4カ月、6カ月、12-15カ月です。特定の健康状態にある2-65歳未満の子供と成人、そして65歳以上の成人は全員、接種が推奨されています。詳細は医師にお尋ねください。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

PCV13、従来の肺炎球菌ワクチンPCV7、ジフテリアトキソイドを含むワクチン（例えばDTaP）のいずれかの接種後に、生死に関わるアレルギー反応が見られた場合には、PCV13を接種してはいけません。

PCV13ワクチンの成分に強いアレルギー反応がある場合、PCV13ワクチンを接種してはいけません。何らかの強いアレルギーがある場合は、医師にお伝えください。

予防接種時に気分が優れない場合、医師の判断で接種日に変更になる場合があります。

4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

PCV13接種後に報告される問題は年齢と接種回数によって異なります。子供の間で最もよく見られる問題には、以下のようなものがあります：

- 接種後、約半数に眠気・一時的な食欲不振・接種部分の赤みと圧痛が見られます。
- 約3人中1人に接種部分のはれが見られます。
- 約3人中1人に微熱が出て、約20人中1人に102.2°Fを超える発熱が見られます。
- 多くて10人中8人がむずがったり機嫌が悪くなります。

成人においては、接種部分の痛み・赤み・微熱・疲労感・頭痛・悪寒・筋肉の痛みが報告されています。

不活化インフルエンザワクチンとPCV13を同時に接種した幼児の場合、熱によるひきつけを発症する可能性が高くなる場合があります。詳しくは医師にお尋ねください。



ワクチン予防接種後に想定される問題:

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 年長の子供や成人では、肩に激痛があり接種した腕を動かすことが困難になる場合もあります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

ワクチン接種は、他の医療行為と同じく、非常に低い可能性で重大な危害や死亡の原因となる場合があります。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくは、以下をご覧ください：
www.cdc.gov/vaccinesafety/

5 重大な反応があった場合には?

どのようなことに注意せねばなりませんか?

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられ、通常接種後数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか?

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。

アレルギー反応はワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は?

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
PCV13 Vaccine

11/05/2015

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use Only

